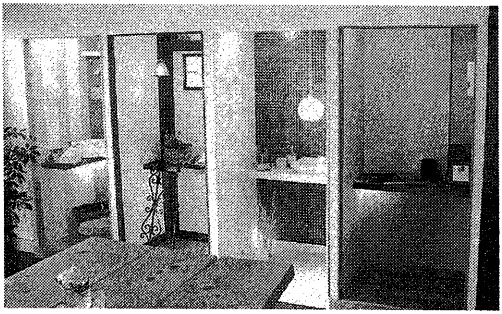
県産住宅の普及に乗る

消費者向けにもアピール

倉敷木材

倉敷木材（岡山県倉敷市、大久保憲作社長）は木材の加工、販売から建築まで手掛ける。

建築部門のクラモク建築センターが建てる住宅に5年前から岡山県産材を意識的に使い始めた。



本社敷地内「暮らしラボ」に企画住宅の一部を展示

そのころ、岡山県は県産材を使った住宅の建築を推進する事業をスタート。現在は使用量に応じて30万～50万円を補助する制度に拡充されている。

当初は製材所が乾燥した構造材を供給する体制が整っておらず、1週間後に県産材を使う物件があっても商機を逃すことがあった。プレカット工場で材料を加工する際、不良材が出ると加工が止まる。米松や集成材なら在庫で対応できるが、県産材では邸別の調達がネックになるという。

今春、創業100周年を記念して企画住宅を発表した。柱と土台に桧、梁桁に杉乾燥材を採用。床やカウンター等の内装にムクや自然素材を多用し、飾り棚や洗面台はオリジナルで製作。「出足は好調。県産材の需要拡大に貢献できそう」（中桐潔営業本部長）と手応えを感じている。

地産地消にも力を入れる。高梁川流域の森と水と暮らしを考えるイベント「GREEN DAY」は大久保社長が実行委員長を務め、今年5年目を迎えた。年2回開催する「暮らしと木のフェア」は消費者に木の良さをアピールする県内有数のイベントとなっている。